

第4学年 国語科学習指導案

児童 1組 男子16名 女子13名 計29名
授業者 千葉 智子

1 単元名 読んで考えたことを話し合おう 「ごんぎつね」新美南吉 (光村図書4下)

2 単元について

(1) 教材について

本作品は、6つの場面で構成されている。1から5の場面は「ごん」の視点で書かれており、「ごん」の心情や変化が捉えやすく、まさに、場面の展開に沿って人物の性格や心情の変化を想像しながら読む力を育てるのにふさわしい作品と言える。「ごん」と「兵十」の関係や、すれ違いが生み出す結末に、子どもはそれぞれ異なった感想や考えを持つだろう。

(2) 子どもたちについて

子どもたちは、物語の設定に関する情報の読み取りは、これまでの文学教材で繰り返し行ってきた。3年下「三年とうげ」では、物語の組立を考え登場人物を設定して、物語を書く学習を行った。また、「モチモチの木」では、場面ごとに人物の会話や行動を整理し、登場人物の人柄をつかむ学習を行った。4年上「白いぼうし」では、叙述を根拠に松井さんの人柄や女の子とちょうの関係について考えを深めた。以降の文学教材でも会話や行動から人物の人柄や心情を想像する学習を重ねている。さらに、描写から場面の様子を想像することも繰り返してきた。本教材でも、既習の読みの力を生かして叙述をもとに人物の性格や場面の様子などを想像する力を伸ばしたい。

(3) 指導にあたって

本単元で課題は「登場人物の行動や気持ちの変化をとらえ、感じたことや考えたことを話し合ひましょう。」というものである。感想・考えだけではなく、何故それに至ったのかについて叙述を根拠に話し合う活動を設定し、自分が判断の根拠としたことを他者のそれと比べることを通して、自分の感想・考えを見つめ直させるとともに、一人一人の感じ方に違いがあることに気づかせ、作品に対する理解をより深めさせたい。

3 単元の目標

- ◎ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。[読] (1) ウ
- ◎ 文章を読んで考えたことを発表し合い、互いの考えの共通点と相違点を考えながら話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気づくことができる。[読] (1) オ
- 目的に応じて書くとともに、書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を伝え合うことができる。[書] (1) カ

4 単元の指導計画（13時間）

- 第1次 ○ 学習の見通しを持つ。（1）
 ○ 「ごんぎつね」を読んで感想を持つ。（1）
- 第2次 ○ ごんを中心に行動の意味や場面の様子について考える。（6）本時（6／6）
 ○ 「ごんぎつね」を読んで感じたことや考えたことを話し合おう。（2）
- 第3次 ○ 読んで考えたことをもとに、続き話を書く。（2）
 ○ 友達と発表し合う。（1）

5 本時の指導（8／13）

（1）目標

文章を読んで考えたことを発表し合い、互いの考えの共通点と相違点を考えながら話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気づくことができる。

（2）指導の構想

読んで感じたことを伝え合う活動として、個人の読みをグループで交流し、その後、全体で交流し合う。その中で出てきた疑問や意見が集中したところを取り上げ、ジャンプの課題として話し合い進めることで、思考の流れに沿って想像を膨らませることができると考える。

（3）展開

学習内容	指導上の留意点（・支援 ○評価）	準備する物
1 「6」の場面を音読する。 2 物語を読んで感じたことを交流する。		拡大教科書
<div style="border: 3px double black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「6」場面を読んで感じたことを伝え合おう。 </div>		
・教科書の書き込みをもとに、グループで話し合い、全体で交流する。	・叙述をもとに話すことを確認する。 ・自分の考えや理由と同じところや違うところを比べたり、質問したりするようにさせる。	
3 物語の中心部分について話し合う。	・根拠を明らかにし話し合う中で、場面の様子を確認し合ったり、登場人物の性格等についても話し合ったりしていくようにさせる。 ○文章を読んで考えたことを発表し合い、互いの考えの共通点と相違点を考えながら話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気づくことができたか。	
4 自分の考えをまとめる。		